

With コロナ時代での外来リハビリテーション運営

法人名 神奈川県厚生連
病院名 相模原協同病院
職種・所属 医療技術部リハビリテーション室
発表者氏名 佐藤陽介
協力者氏名 野間靖弘 太附広明 井關治和 高野靖悟

<緒言>

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の世界的な感染拡大により、With コロナと呼ばれる感染予防を前提とした生活様式や経済の在り方を求められるようになった。リハビリテーション（以下、リハ）の現場も例外ではなく、感染予防とリハ運営を両立させるよう、今日まで検討を重ねてきた。本発表では、管理者としての立場から、主に外来リハでの感染予防への取り組みを報告する。

<感染予防への取り組み>

【課題】感染予防を講じる上で、以下の3点が課題となった。①COVID-19の感染経路は飛沫感染と接触感染である。②外来リハの特性上、全患者に外部からCOVID-19を持ち込むリスクがある。③未知のウイルスに対する対処方法が不足している。

【対策】①飛沫感染予防として、スタッフ・患者のマスク着用、エアロゾルを発生させる可能性の高い検査等の中止、定期的な換気等を行った。接触感染予防として、一患者一手洗い、使用後の治療ベッドや備品のアルコール消毒、隣接する治療ベッドを離す等のゾーニングを行った。②患者入退室時の手指消毒、外来患者と入院患者のリハ時間の区分け等を行った。③スタッフから感染者や濃厚接触者が出た際に備えて、院内感染対策委員会（以下ICT）への情報共有を速やかに行えるよう連絡手段を明確化した。

【結果】①エアロゾルの発生しやすい検査等に関しては、周囲との間隔を保ち、換気を行うことで実施可能であった。患者毎の衛生管理に関して、「ベッドを拭いていない」等のクレームを頂くことが数回あった。②患者自身の手指消毒は、リハ室入口にアルコール消毒を設置することで円滑に行えた。外来と入院の時間分けは、全体的な患者数の回復に伴って困難となった。③当初、スタッフが濃厚接触者となったことも度々あったが、ICTと速やかに連携することで休みを最小限にすることができた。

【改善策】①治療ベッド毎にアルコール消毒と清拭シートを設置し、スタッフ・患者ともに使いやすくした。②リハ室内で外来患者と入院患者の場所の区分けを行うことで時間分けの制限を緩和した。③ICTとの連携事案や感染予防について、朝ミーティングを用いて何度もスタッフ全員に啓蒙を図った。

<まとめ>

With コロナ時代において、管理者としての立場から外来リハ運営に取り組んだ。感染予防を実践するためには物品やベッド、時間等の環境整備とスタッフ全員への感染予防に対する継続した啓蒙が必要と感じた。